

エクソンモービル(XOM)

コロナワクチン普及で原油需給が一層タイトとの見通し
に乘じ、債務削減を進めバランスシートが改善へ

ニューヨーク | 石油・総合 | 業績フォロー

BLOOMBERG XOM:US | REUTERS XOM.N

- 2021/12期1Q(1-3月)は、売上高が前年同期比5.3%増の591.47億USD、純利益が前年同期の▲6.1億USDから27.30億USDへ黒字転換。原油の平均価格が上昇したことを受けて、探査・掘削を手掛ける上流部門が増収
- 国際エネルギー機関(IEA)によると、コロナワクチンの普及で原油需給が一層タイトとの見通しのほか、米シェール生産停滞が原油高に追い風。
- 財務体質改善に注力も配当金を維持。S&P500種株価指数の構成企業3番目に高い配当を支払い、配当利回りが5.8%と配当貴族として注目。

What is the news?

4/30 発表の 2021/12 期 1Q(1-3 月)は、売上高が前年同期比 5.3%増の 591.47 億 USD、純利益が前年同期の▲6.1 億 USD から 27.30 億 USD へ 5 四半期ぶりの黒字へ転換。石油および石油換算の天然ガスの生産量は同 6.4%減の日量 378.7 万バレルだったが、原油の平均価格が前四半期比 42%上昇したことを受けて、探査・掘削を手掛ける上流部門が増収に寄与したほか、化学製品の値上がりも追い風となった。それに加えて、損益面では今年 2 月に米テキサス州を襲った寒波の影響で、石油・天然ガスの販売減と設備の修繕で 6 億弱 USD の損失が発生したが、資本支出及び探鉱投資を同 56.1%減と抑えたことが最終黒字の確保に寄与した。

セグメント別の1Qの利益は以下の通り。①上流部門が約4.8倍の25.54億USD。米国事業が前年同期の▲7.04億USDから3.63億USDに黒字転換した。②精製を行う下流部門が前年同期の▲6.11億USDから▲3.90億USDに赤字幅縮小。産業用燃料のマージンが改善した。③化学製品部門が同9.8倍の14.15億USD。堅調な需要のほか、海上コンテナ不足やサプライチェーンの混乱を受けて産業向けのマージンが改善した。

How do we view this?

同社は2020年度の借入金で前期比44%増の688億USDと急増した債務の削減を優先するなか、2021年度の設備投資計画を前期比11.2%減-25.2%減の160-190億USDに抑えた。1Qに40億USD超の債務削減を達成したほか、構造的なコスト削減計画についても2020年度通期の30億USDから加速して2023年までに年間60億USDとする目標を掲げた。

また、厳しい業績の2020年度においても配当を削減しなかったなか、国際エネルギー機関の5月の月例報告によれば2021年の石油需要は既に供給を上回り、新型コロナワクチン接種の普及に伴う移動需要増で需給が更に逼迫する見通し。原油価格の堅調な推移が続けば、配当に関する懸念は払拭されよう。

更に、今年2月に炭素回収・貯留(CCS)技術の新事業部門を設立。2025年までに30億USDを投資して世界20ヵ所以上にCCSプラントを建設する計画を打ち出したほか、官民共同の1,000億USD規模の米国CO2貯蔵事業立上げを提案。CCS技術の普及に伴うCO2の実質排出量の削減により、石油・ガスの生産縮小のペースを緩やかにすることができるかどうか重要な課題となって来るだろう。

業績推移

※参考レート 1USD=110.71円

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12F	2022/12F
売上高(百万USD)	279,332	255,583	178,574	260,869	267,095
当期利益(百万USD)	20,840	14,340	-22,440	15,675	19,010
EPS(USD)	4.88	3.36	-5.25	3.67	4.44
PER(倍)	13.14	19.08	-	17.47	14.44
BPS(USD)	45.27	45.26	37.12	38.94	40.27
PBR(倍)	1.42	1.42	1.73	1.65	1.59
配当(USD)	3.23	3.43	3.48	3.49	3.51
配当利回り(%)	5.04	5.35	5.43	5.44	5.48

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(USD) 3.49 (予想はBloomberg)
終値(USD) 64.10 2021/6/16

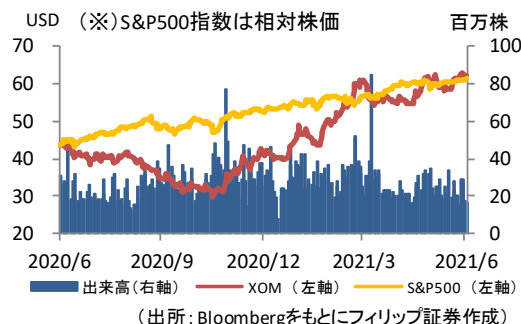
会社概要

1999年にエクソンとモービルの合併により設立。総合エネルギー企業で国際石油資本であり、「スーパーメジャー」6社の1社。世界各地で石油とガスの探査・生産を行うほか、発電、鉱山事業やガソリン、潤滑油の製造・販売も手掛ける。上流部門、下流部門、化学製品部門を組み合わせた事業構成により、市場変動が大きい時でも安定的な収益を生み出している。高配当企業として知られ、積極的な株主還元を実施している。

①上流部門は、油田の探査・開発や、掘削装置の提供など、生産に携わる。②下流部門は、原油の精製や石油製品の販売などを行なう。③化学製品部門は、原油を精製プラスチック材料など化学製品を製造する。

企業データ(2021/6/16)

ベータ値 1.09
時価総額(百万USD) 271,370
企業価値=EV(百万USD) 383,304
3ヵ月平均売買代金(百万USD) 1,499.8



主要株主(2021/6)

(%)

1.VANGUARD GROUP 8.25
2.ブラックロック 6.64
3.ステート・ストリート 5.71

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

李一承

icheng.lee@phillip.co.jp
+81 3 3666 0707

笹木和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

2021年6月17日

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。